

<News Release>

報道関係各位

2019年12月17日

(公社)日本アロマ環境協会「2018年アロマ市場に関する調査レポート」

2018年のアロマ市場規模は約3,564億円 ～アロマ化粧品が市場を牽引、精油配合製品市場が拡大～

公益社団法人 日本アロマ環境協会(略称:AEA J、東京都渋谷区)は、2019年7月～9月に、2018年のアロマ市場の構造と市場規模に関する調査を実施しました。

AEA Jは、公益的観点から、アロマ市場の構造とその規模を把握するとともに、今後の課題や展望を明らかにすることによって、アロマ関連産業の健全な発展に寄与することを目的に、2012年に初めて「アロマ市場に関する調査レポート」を発表。この度、第3回目となる本調査を実施しました。

その結果、2018年のアロマ市場規模は3,564億円(前回調査比107%)で、市場の増加率は緩やかになってきているものの、引き続き市場が拡大していることが明らかになりました。

AEA Jは、有意なデータの蓄積を目指して、今後も定期的にアロマ市場調査を実施していく予定です。

●調査結果(抜粋)

2018年のアロマ市場規模は約3,564億円に

2018年のアロマ市場規模は**3,564億円**で、そのうち、アロマセラピー製品・サービス等による市場規模は551億円、精油を配合した製品等による市場規模は3,012億円と推計されました。

「アロマ化粧品」が市場を牽引

「アロマ化粧品*市場」が、前回(2015年)比112%となる1,450億円に成長。精油を配合した化粧品ブランド数も増加していることがわかり、今後もアロマ市場を牽引する大きな要因になるとみられます。また、男性化粧品市場の拡大とともにアロマ化粧品を使用する男性が増えつつあり、今後の成長分野として注目されます。

*天然の精油を配合した自然派化粧品

「マスク」や「防虫剤」など、アロマを使った製品市場が大きく伸長

アロマ市場はトイレットリー業界や家電業界などの既存の大市場へとさらに外延を広げている傾向が見られていましたが、今回調査では精油を利用した「虫よけスプレー」や「マスク」などの市場が**前回比151%**(22億円)と大きく伸長し、生活の様々な場面にアロマ製品が広がっていることが見えてきています。

※本リリースに含まれる調査結果をご掲載の際は、下記問い合わせ先にご連絡のうえ、必ず「(公社)日本アロマ環境協会(AEA J)調べ」と明記ください。

<調査の詳細・本件に関する報道関係からのお問い合わせ先>

公益社団法人 日本アロマ環境協会 広報担当: 蓼沼(たでぬま)/原/青江
Tel: 03-6384-2861(平日9:00～17:00) E-mail: aeaj-pr@aromakankyo.or.jp

添付資料：調査結果

<アロマ市場の定義と範囲>

本調査では、アロマ市場を、「アロマセラピー市場と精油配合製品等市場で構成される市場」と定義し、対象範囲を定めた。

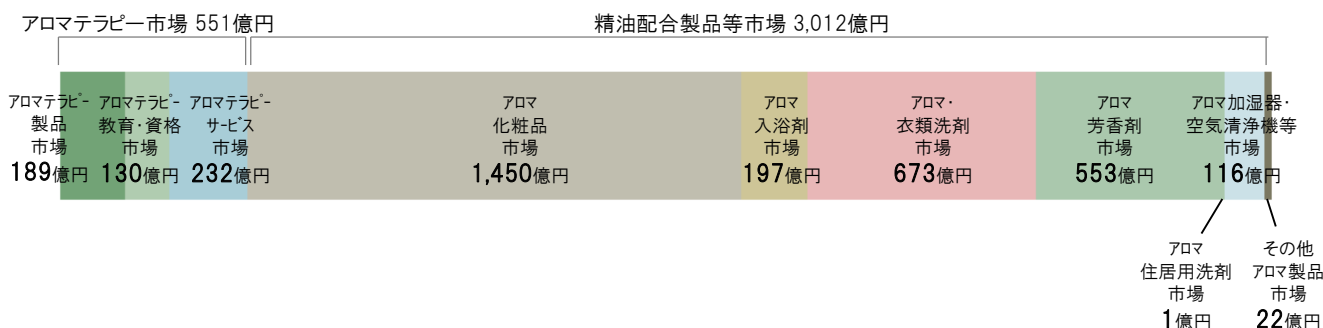
- ① **【アロマセラピー市場】**：生活者が天然の精油を利用してアロマセラピーを楽しむ、あるいはアロマセラピーを学ぶことなどによって創造される市場
- ② **【精油配合製品等市場】**：天然の精油を配合した化粧品、入浴剤、衣類洗剤、芳香剤などの日用品、アロマも利用できる機能が付加された製品などによって創造される市場

※「アロマ市場」には、「アロマ」と謳っていても天然の精油が含まれていない製品やサービスは含まない。

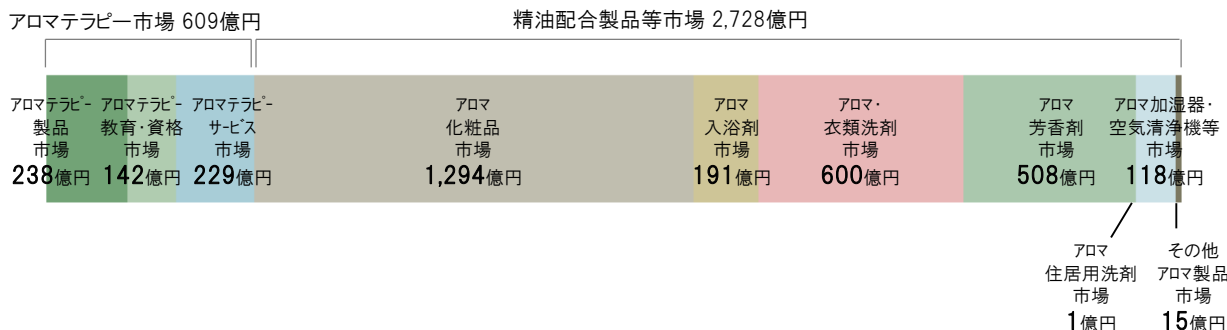
1. アロマ市場規模の内訳 ～市場規模は3,564億円に～

2018年のアロマ市場全体の市場規模は、3,564億円(事業者小売売上高ベース)と推計され、2015年と比較し**107%伸長した**。構成内訳は以下のとおり。

2018年アロマ市場 3,564億円



2015年アロマ市場 3,337億円



2. 個別アロマ市場の動向 ～より簡単にアロマを楽しみたいというニーズの高まり～

1) アロマセラピー市場(551億円)

アロマセラピー製品市場(189億円)

[対象] 精油、基材、芳香器具、アロマ活用グッズ・クラブ

- アロマセラピー製品市場は前回比21%減。6割以上を占める「精油」や「基材」の市場規模も前回比約20%減となっていることから、アロマクラブを手作りするより、「手軽に、簡単にアロマを楽しみたい」というニーズが一層広がっているとみられる。
- 精油においては、より手軽に楽しめる、ブレンド精油(予め複数種類の精油を調合したもの)が人気になっている。「眠り」「心を落ち着かせる」など、わかりやすくベネフィットを感じさせるネーミングがついたブレンド精油が人気を集めている。特に、現代人の「疲れ」や「悩み」を反映し、「眠り」をキーワードにした商品は、特に好調となっている。
- 前回調査時より、和精油(日本特有の植物から抽出した精油)の人気は定着している。ヒノキは比較的高めの価格にもかかわらず売り上げが好調で、ユズは精油配合製品としての展開が広がっている。

アロマセラピー教育・資格市場(130億円)

[対象] 資格認定団体の事業、アロマスクール、通信教育、アロマ関連書籍・DVD

- 各団体の認定スクールや通信教育などは厳しい状況が続き、アロマセラピー教育・資格市場は2015年と比較し約9%減。アロマセラピー教育・資格市場の中で「アロマスクール」が約7割(90億円)を占めている。

アロマセラピーサービス市場(232億円)

[対象] アロマトリートメントサービス、アロマ空間サービス、その他サービス

- アロマセラピーサービス市場のうち、「アロマトリートメントサービス」が約9割(208億円)を占めている。
- 「アロマトリートメントサービス」の市場規模は、前回は99%と横ばい。ボディケアサロンやリフレクソロジーサロンでもアロマトリートメントサービスが提供されており、競争が激化している。
- 「アロマ空間サービス」の市場規模は20億円で、前回は135%と大きく伸長。前回調査時に比べ、アロマを空間芳香にとり入れる業界が広がり、ホテルや商業施設だけでなく、一般企業のエントランスや共有スペース、社員のリラックススペースなどでの採用が増えている。

2) 精油配合製品等市場(3,012億円)

アロマ化粧品市場(1,450億円)

[対象] 天然の精油を配合し、化学合成成分はできるだけ排除している自然派化粧品(オーガニック化粧品を含む)のうち、スキンケア化粧品、ヘアケア化粧品、メイクアップ化粧品、ボディケア化粧品

- アロマ化粧品市場は前回調査時程ではないものの、依然として拡大傾向にあり、前回は112%と伸長。うち、オーガニック化粧品が前回は126%伸長し、3割以上を占める市場に。前回調査時に比べ、精油を配合した化粧品ブランドが増加。また、ボディケア、スキンケアだけでなく、メイク用品にも精油配合製品が増え、アロマ化粧品全体の市場が広がっている。
- 自然派化粧品にも、肌へのやさしさや安全性といった特性だけでなく、一般化粧品と同様に“美白”や“エイジングケア”といった機能が付加されるようになったことで、一般の化粧品からのスイッチも含め市場が拡大している。
- 男性化粧品に注力するメーカーの増加に伴い、男性にもアロマ化粧品が広がりつつある。

アロマ入浴剤市場(197億円)

[対象] 天然の精油が配合されている入浴剤

- アロマ入浴剤市場は前回は103%と堅調。入浴剤市場全体が765億円*と推計されているため、その25%をアロマ入浴剤が占めていることになる。
*矢野経済研究所「トイレタリー市場の展望と戦略2015版」をもとに推計
- トップシェアは大手トイレタリーメーカーで、続く第2位のメーカーのシェアと合わせると市場全体の約半数(約46%)を占める状況にあると推定される。

アロマ衣類洗剤市場(673億円)

[対象] 天然の精油が配合されている衣料用液体洗剤、柔軟剤

- アロマ衣類洗剤市場は前回は112%。柔軟剤が市場の約97%を占めている。
- 大手トイレタリーメーカー各社は、精油配合を訴求する商品を積極的に投入し、競合状況がさらに激化している。

アロマ芳香剤市場(553億円)

[対象] 天然の精油が配合されている室内芳香剤、衣類・布製品消臭剤

- アロマ芳香剤市場は前回比109%と市場は拡大している。
- 消臭へのニーズが広がる中、精油を使用した低価格帯のルームミスト(スプレータイプ)が伸びている。

アロマ住居用洗剤市場(1億円)

[対象] 天然の精油が配合されている住居用洗剤

- 前回調査時点からほぼ横ばいであり、市場拡大につながる新たな動きは見られない。

アロマ加湿器・空気清浄機等市場(116億円)

[対象] アロマ専用ではないが、アロマも使用できる加湿器・空気清浄機

- アロマ加湿器・空気清浄機等市場は前回比98%と横ばいで推移。
- 海外法人が提供する安価な商品が増えており、低価格化が進行している。その一方で、加湿器自体の需要は高いため、デザイン性を高めた商品の投入もされている。また、女性ユーザーを中心に、自分だけの空間で香りを楽しむパーソナル化・小型化の流れも継続している。

その他アロマ製品市場(22億円)

[対象] 天然の精油が使われているアロママスク、防虫剤等

- 2018年のその他アロマ製品市場は22億円で前回比151%と大きく伸長。そのうちアロママスクが13億円、防虫剤が9億円と推計。
- アロママスク、虫よけスプレーなど、精油の特性をいかした商品が広がっている。防虫剤カテゴリーは衣類を守る防虫剤がほとんどであったが、今回の調査では、子供などが利用できる「虫ケア」商品といわれるジャンルも生まれ、**前回比250%**と飛躍的に成長。
- カビ対策、消臭、虫対策などを化学的な物質を使わずに行いたい人が増えていることや、自分で精油を用いて虫よけアイテムを手作りしていた人が、手軽に使えるアロマ配合の市販品にシフトしていることなどから、この市場が拡大しているとみられる。
- 大手日用雑貨メーカーだけでなく、アロマセラピー製品を製造・販売しているメーカーの市場参入が広がっている。

3. アロマ市場の今後の展望 ～精油配合製品の多様化と、男性市場の拡大～

- 前回調査時に引き続き、精油配合製品等市場が拡大していることから、「より手軽に、簡単にアロマを楽しみたい」というニーズがさらに広がっていることが明らかになった。この傾向は今後もさらに続く予想される。
- ライフスタイルや生活価値観の変化によって、居住空間(プライベート空間)を充実させたいという男性が増えている流れのなかで、アロマを楽しむ男性も増加傾向にある。都心部では来店者の半数が男性を占めるアロマセラピーショップも出てきており、男性用のアロマ化粧品と合わせ、今後市場の拡大が見込まれる。
- 今回調査では精油を利用した「虫よけスプレー」や「マスク」などの市場が大きく伸長したことから、今後も精油配合製品のバリエーションが増えるとともに、生活の様々な場面にアロマ製品が広がっていく兆しがある。

<調査概要>

[調査期間]	2019年7月～9月
[調査対象]	AEA Jをはじめとするアロマ関連団体およびその会員企業 アロマ関連商材・サービスを取り扱っている事業者
[調査方法]	郵送アンケート調査(有効回答:144社)、訪問・電話ヒアリング調査(15社)

※アロマ市場は多岐にわたるため、その規模を画一的な方法で推計することは困難であることから、本調査では、アロマ市場を10市場に分類。それぞれの特性をふまえて最適な方法を検討し、事業者への郵送アンケート調査と訪問・電話ヒアリング調査に加え、売上データなどの既存資料を補完的に活用するなど、より実態に即した調査方法で実施

公益社団法人 日本アロマ環境協会(AEAJ)について

AEA Jは内閣府に公益認定された、アロマセラピー関連で唯一の公益法人。植物の香りを用いた「アロマセラピー」を通じて人々の心身の健康に寄与することを目的に、アロマセラピーの普及・調査・研究などの活動を行っています。

また、自然の香りある豊かな環境(アロマ環境)を未来につなぐため、環境力オリスタ検定や香育など、自然環境の保全・創造にむけた取り組みも推進しています。

【AEA J会員数】個人正会員54,426名、法人正会員265社(2019年3月31日現在)

※本リリースに含まれる調査結果をご掲載の際は、下記問い合わせ先にご連絡のうえ、必ず「(公社)日本アロマ環境協会(AEAJ)調べ」と明記ください。

<調査の詳細・本件に関する報道関係からのお問い合わせ先>

公益社団法人 日本アロマ環境協会 広報担当: 蓼沼(たでぬま)/原/青江
Tel: 03-6384-2861(平日9:00～17:00) E-mail: aeaj-pr@aromakankyo.or.jp